

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和4年4月19日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立末広小学校 第6学年、全児童

実施児童数（ 62 人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語、算数・数学及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりとする。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

ウ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととし、出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

平均正答率の全体的な分布状況は、低位層と中位層が多く分布している。

平均正答率（本校 53／泉佐野市 62／大阪府 64／全国 65.6）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問	
<p>【言葉の特徴や使い方に関する事項】</p> <p>○1二 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える。 (55.7/68.8)</p> <p>○3三 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。</p> <p style="padding-left: 20px;">ア(ろくが) (49.2/65.2)</p> <p style="padding-left: 20px;">イ(はんせい) (41.0/58.7)</p> <p style="padding-left: 20px;">ウ(したしむ) (45.9/67.1)</p> <p>【話すこと・聞くこと】</p> <p>○1四 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる。 (31.1/47.7)</p>	<p>【読むこと】</p> <p>○2三 表現の効果を考える。 (42.6/59.2)</p> <p>【書くこと】</p> <p>○3一 文章全体の構成や書き表し方などに注目して、文や文章を整える。 (47.5/59.2)</p> <p>○3二 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。 (21.3/37.7)</p>	

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか。	43.5	59.2	○	15.7
国語の勉強は大切だと思いますか。	93.6	93.3		0.3
国語の授業の内容はよく分かりますか。	79.0	84.0	◇	5.0
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	83.9	91.8	◇	7.9
今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。(全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した)	62.9	78.0	○	15.1
解答時間は十分でしたか。	54.8	66.0	○	11.2

○「国語の勉強は好きですか」の項目では、全国に比べて16ポイント近く下回っている。国語に対する苦手意識があり、読解力や語彙力、要約する力を育む必要がある。

○漢字の設問に対して、正答率が全3問とも全国に比べて20ポイント近く下回り、あわせて無回答率が高い。漢字の定着を図るために、繰り返し練習するだけでなく、日常生活の中でも漢字や言語に興味関心が持てるように工夫して指導する必要がある。

○記述式の設問全般において、正答率が全国に比べて20ポイント近く下回り、あわせて無回答率が高い。記述式の設問に対して、最初からあきらめてしまうなどの抵抗感があると考えられる。低学年のうちから普段の学習の中で、自分の考えを一つにまとめたり、条件付きの文章を書いたりするなどして、文章を整理しながら長文を書くことに慣れていく必要がある。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

平均正答率の全体的な分布状況は、低位層と高位層がやや多く分布している。

平均正答率（本校 54／泉佐野市 61／大阪府 63／全国 63.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問	
<p>【数と計算】</p> <p>○1(3) 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる。 (55.7/76.0)</p> <p>○3(4) 加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる。 (49.2/67.7)</p> <p>【図形】</p> <p>○4(3) 図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している。 (45.9/66.5)</p>	<p>【変化と関係】</p> <p>○2(3) 示された場面のようには、数量は変わっても割合は変わらないことを理解している。 (19.7/21.4)</p> <p>【データの活用】</p> <p>○3(1) 表の意味を理解し、全体と部分の関係に注目して、ある項目に当たる数を求めることができる。 (63.9/75.3)</p>	

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか。	48.4	62.5	○	14.1
算数の授業の内容はよく分かりますか。	74.2	81.2	◇	7.0
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	87.1	93.3	◇	6.2
算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。	67.8	80.4	○	12.6
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。	72.6	85.7	○	13.1
今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。 (全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した)	56.5	82.8	○	26.3
解答時間は十分でしたか。	69.3	83.4	○	14.1

○「算数の勉強は好きですか」の項目では、全国に比べて14ポイント近く下回っている。算数に対する苦手意識があり、日常生活と学習を関連付けながら、算数への興味・関心を育む必要がある。

○記述式の設問全般において、正答率が全国に比べて20ポイント近く下回り、あわせて無回答率が高い。低学年のうちから普段の学習の中で、式や図だけでなく、言葉も使いながら自分の考えを書いたり、ペア・グループ活動を通して、自分の考えを説明したりする活動を多く設定する必要がある。

○「今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」の項目で「全ての書く問題で最後まで書こうと努力した」と回答した児童の割合が全国に比べて26ポイント近く下回っている。最後まで問題に粘り強く取り組むことができるように、学習の中で満足感、達成感が得られる成功体験を積み重ねていく必要がある。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

平均正答率の全体的な分布状況は、低位層が多く分布している。

平均正答率（本校 49／泉佐野市 58／大阪府 60／全国 63.3）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

理科	特徴がみられた設問	
<p>【「エネルギー」を柱とする領域】</p> <p>○3(2) 問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している。 (54.1/74.4)</p> <p>【「粒子」を柱とする領域】</p> <p>○2(4) 自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。 (16.4/39.3)</p>	<p>【「生命」を柱とする領域】</p> <p>○1(2) 自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。 (50.8/67.5)</p> <p>【「地球」を柱とする領域】</p> <p>○4(2) 予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる。 (44.3/64.5)</p>	

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科の勉強は大切だと思いますか。	80.6	86.5	◇	5.9
理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。	74.2	67.9	◇	6.3
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	74.2	77.2		3.0
将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか。	33.9	26.6	○	7.3
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか。	77.4	84.9	◇	7.5
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか。	82.2	72.2	○	10.0
今回の理科の問題では、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。（全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した）	66.1	80.6	○	14.5

○設問の終盤にかけて正答率が低くなっていることから、最後まで集中力が持続せず問題文を正しく読み取ることができていない可能性がある。問題文に書かれている予想や結果、図やグラフなどの様々な情報の中から、必要な部分を取り出しながら分析していく力を育む必要がある。

○全体を通して「問題を見いだす、仮説を立てる、観察・実験をしたしかめる、まとめをする」の各々の視点から分析し、解釈して答える設問の正答率が低い。普段の授業の中で、まとめまでの一連の流れに対して自分の考えをまとめたり、出てきた情報を整理したりする機会を取り入れていく必要がある。

○「今回の理科の問題では、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」の項目で「全ての書く問題で最後まで書こうと努力した」と回答した児童の割合が全国に比べて15ポイント近く下回っている。学習の中で、予想や結果について、自分で考えたことを文章にまとめる活動を増やしていく必要がある。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。(例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない)

また、それ以外に質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差があるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	<ul style="list-style-type: none"> ・1日当たりのゲームをする時間や携帯電話、スマートフォンを使用する時間が全国を大幅に上回っている。 ・自然の中で遊んだり、地域の行事に参加したりする児童の割合が全国を下回っている。 	(5) 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。(3時間以上) <u>(56.5/30.7)</u> (6) 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。(3時間以上) <u>(42.0/19.7)</u> (27) 自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか。(51.6/65.1) (29) 今住んでいる地域の行事に参加していますか。 <u>(32.2/52.7)</u>
【家庭学習の様子】	<ul style="list-style-type: none"> ・家で自分で計画を立てて学習している児童の割合が全国を下回っており、授業以外の学習時間も全国を大幅に下回っている。 	(19) 家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか。(先生や友達に聞く) <u>(85.5/97.2)</u> (20) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。 <u>(46.7/71.1)</u> (21) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。 <u>(14.6/25.1)</u> (22) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(1時間以下) <u>(74.2/43.8)</u> (31) 放課後や週末に何をしておこなうことが多いですか。(勉強や読書) <u>(29.0/56.9)</u>
【学校での学習の様子】	<ul style="list-style-type: none"> ・最後までやり遂げたり、何事にも挑戦しようとする児童の割合が全国を下回っている。 ・授業の中で、PC・タブレットなどのICT機器や話し合い活動を積極的に取り入れていく必要がある。 ・授業の最後に学習が分かったかどうかを確認する振り返り活動を取り入れていく必要がある。 	(10) 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。 <u>(74.2/87.2)</u> (11) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。(62.9/72.5) (33) 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。 <u>(30.7/43.9)</u> (43) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。 <u>(67.7/80.1)</u> (44) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。 <u>(67.8/78.2)</u>

本校の取組

◎これまでの取組

(1) 研究主題と研究体制

本校では、児童が自信を持って自分の考えを発表し、友だちの考えも聞きながら自分の考えを深める活動に取り組んでいる。そこで、まず自分の考えを持つために、一昨年度から「書く」活動を大切に研究を進めてきた。具体的には、登場人物になりきって日記を書いたり、スケーリング(心情を視覚化する手法)を用いて登場人物の気持ちを表現したり、タブレットパソコンを活用してダイヤモンドランキング(複数の選択肢の中から自分が大切だと考える順にランキングしていく手法)を作成したりする活動に取り組んでいる。

また、自分の聞いた話を要約してまとめる活動を実施し、「書く」力の育成に努めている。

(2) 学習規律の確立「学びをつくる5つのとびら」

学習の基本的なきまりを示す「学びをつくる5つのとびら」に学校全体で取り組んでいる。①筆箱の中身をそろえよう②下敷きをしよう③姿勢を正そう(立腰)④友だちの話を聞こう⑤自分の考えを発表しよう、の5項目から学期ごとに一つずつ重点目標を定め、学習規律の確立に努めている。今年度は、児童の実態に合わせて、1学期に③、2学期に①を重点目標に設定し、毎日の朝学習の時間に放送で呼びかけている。

(3) 少人数・習熟度別指導

3年生から6年生においては、学級担任と少人数担当による習熟度別に分割した授業やチームティーチングを行い、児童一人ひとりに応じたきめ細やかな指導(指導の個別化)を行っている。一斉授業と比べて、一人ひとりが発言する場や活躍する場が増え、学習に意欲的に取り組む姿が見られる。特に学力に課題がある児童において、主体的に取り組むなどの効果がみられる。また、間違えた問題をそのままにしていたり、最後までやり遂げることが難しかったりする児童をフォローするため、毎日昼休みの時間に学習支援を行っている。

(4) 学習の定着

本校の実態から、低学年での基礎計算や九九の定着に課題があり、中・高学年の学習に影響している様子が見られる。意欲を持ちながら基礎学力の定着を図るために、中・高学年が低学年にたし算・ひき算・九九を教える「けいさん応援隊」を学期に1回実施している。

(5) 家庭学習の推進

家庭学習の大切さを児童に意識させることをねらいとして、年度初めに「家庭学習の手引き」を配布し、学期に1回「家庭学習ウィーク」を設定している。自学プリントやクロムブックを活用しながら、家庭学習の習慣化に向けての取組みを進めている。

◎これからの取組み

「書く」活動に重点的に取り組んできたが、今年度の全国学力学習状況調査の結果から、特に記述式の設定間において全国平均と差があることがわかった。依然として、自分の考えをまとめ表現することに課題があり、引き続き研究を進める必要がある。本校の課題を改善していくために、以下のことに取り組んでいきたい。

- 自分の考えをまとめられるように、読解力・語彙力・要約する力の育成に取り組んでいく。その手立てとして、文章全体を読み取ることができるようにワークシートを工夫したり、心情を視覚化したスケーリングを用いたりして、自分の考えを表現できるよう、支援していく。
- 記述式の問題への抵抗感があるため、自分の考えを一つにまとめたり、条件付きの文章を書いたりする活動を多く取り入れ、長文を書く力を養う。
- 語彙力や要約する力を育むために「ことばプリント」「要約プリント」を作成し、朝学習や普通の授業の中で取り組んでいく。
- 一人一台のタブレットを効果的に活用した研究を進めていく。
- 基礎的な学力の定着のために、プリントやドリル、タブレットを活用しながら漢字や計算の反復学習に取り組んでいく。